

観光業

業況、売上、採算

今期（2022.4～6）の業況判断DIは42.0で、前年同期(2021.4～6)と比べ105.9ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

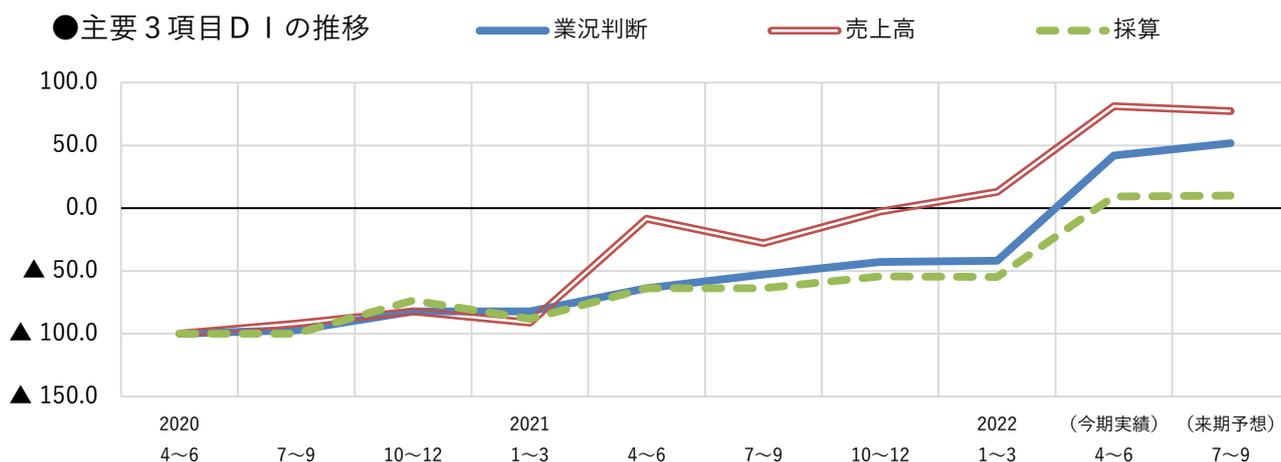
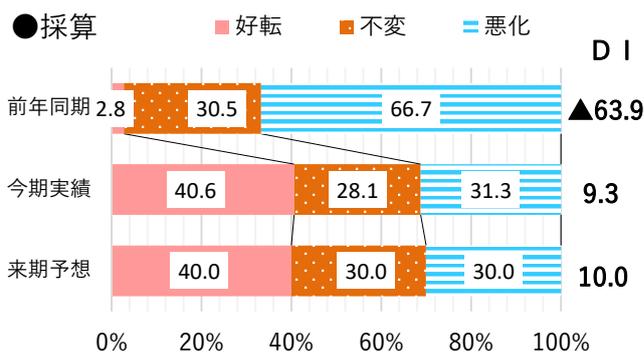
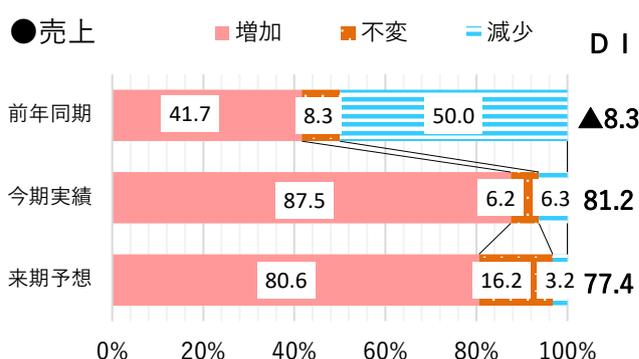
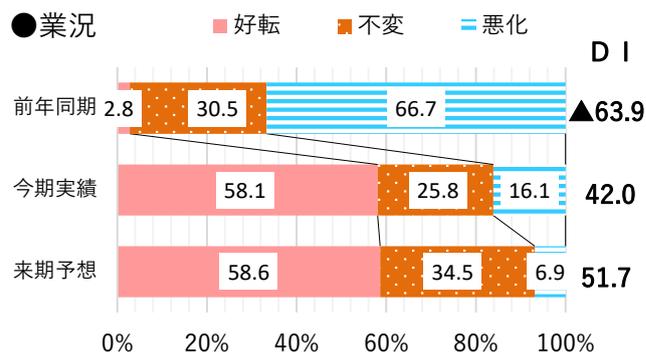
来期（2022.7～9）は、業況の好転傾向が続くと予想しています。

今期の売上DIは81.2で、前年同期と比べ89.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

今期の採算DIは9.3で、前年同期と比べ73.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

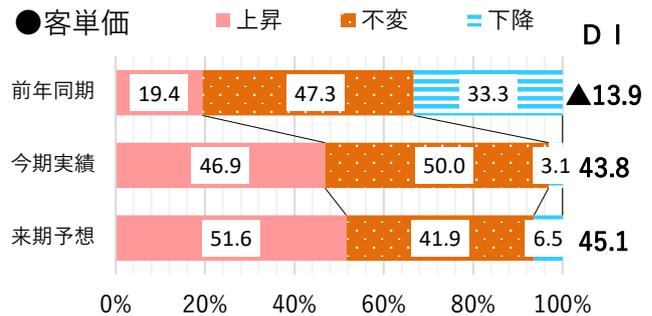
来期は、採算に大きな変化はないと予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

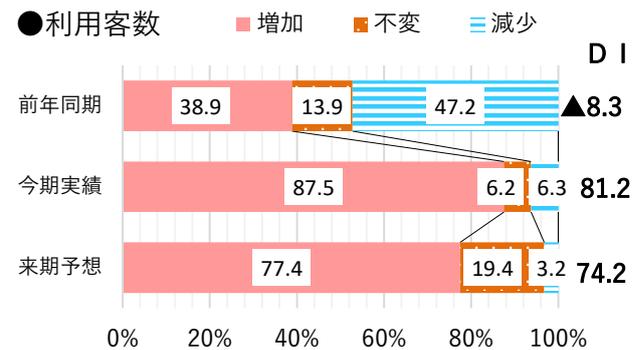
今期の客単価DIは43.8で、前年同期と比べ57.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価の上昇傾向が強まると予想しています。



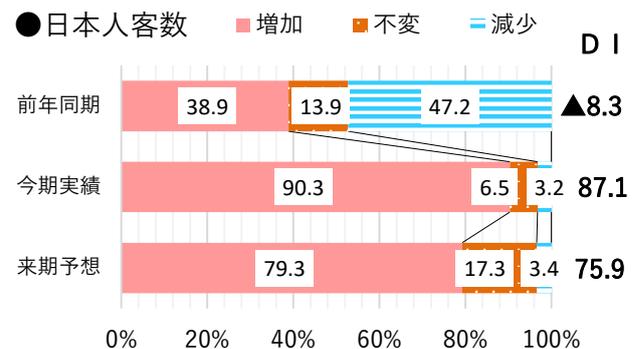
今期の利用客数DIは81.2で、前年同期と比べ89.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、利用客数の増加傾向が続くと予想しています。



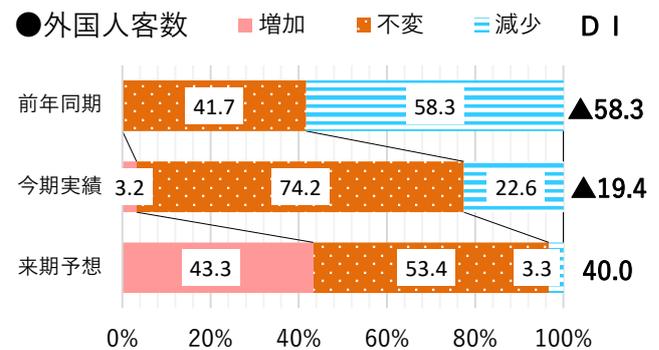
今期の日本人客数DIは87.1で、前年同期と比べ95.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、日本人客数の増加傾向が続くと予想しています。



今期の外国人客数DIは▲19.4で、前年同期と比べ38.9ポイントと大幅に上昇しました。

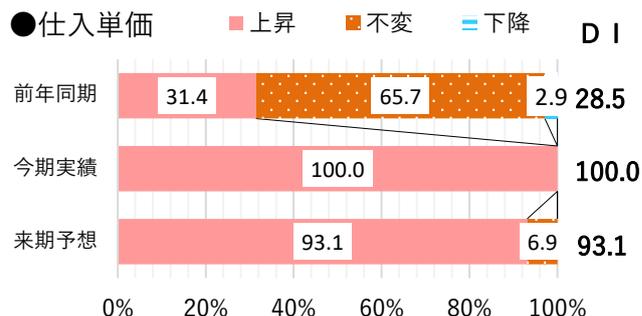
来期は、外国人客数が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは100.0で、前年同期と比べ71.5ポイントと大幅に上昇しました。

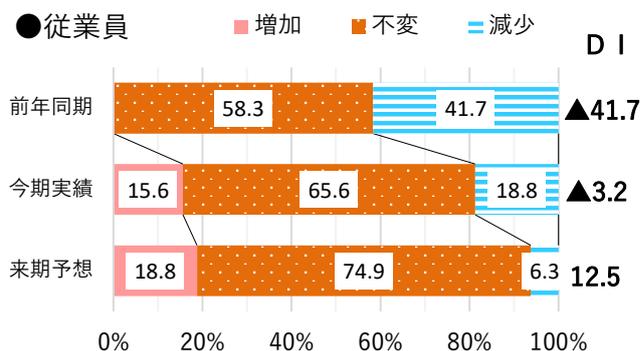
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



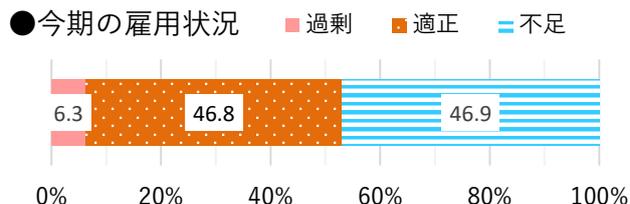
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲3.2で、前年同期と比べ38.5ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は6.3%、適正であると回答した企業の割合は46.8%、不足していると回答した企業の割合は46.9%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、観光業全体の37.5%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	3
不変だった	過剰	2
	適正	12
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	5

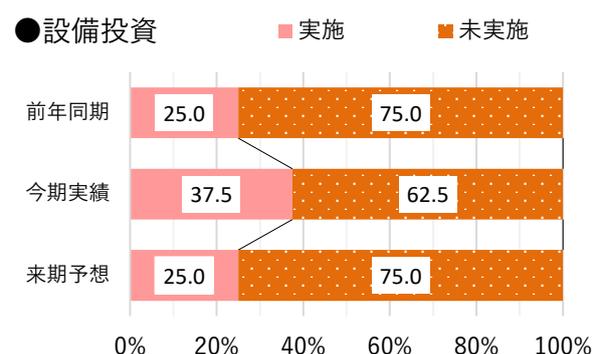
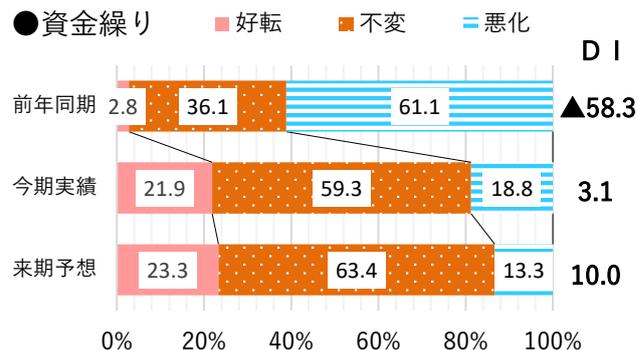
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは3.1で、前年同期と比べ61.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りの好転傾向が続くと予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は37.5%で、前年同期と比べて12.5%増加しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「O A 機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は25.0%で、減少を予想しています。

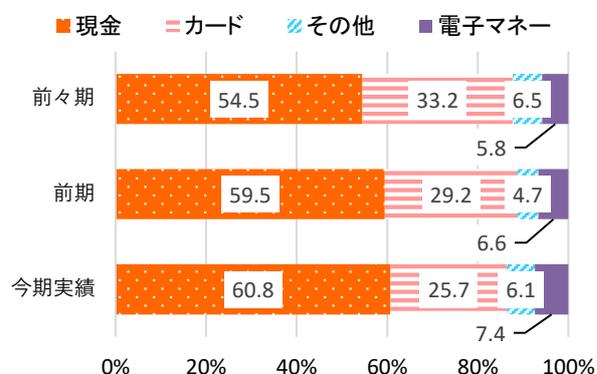


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で60.8%、2位がカードで25.7%、3位が電子マネーで7.4%、4位がその他で6.1%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、旅行代理店からの振り込み、クーポン券、Go To イートの食事券、掛売りです。

● 今期利用客の決済方法(%)

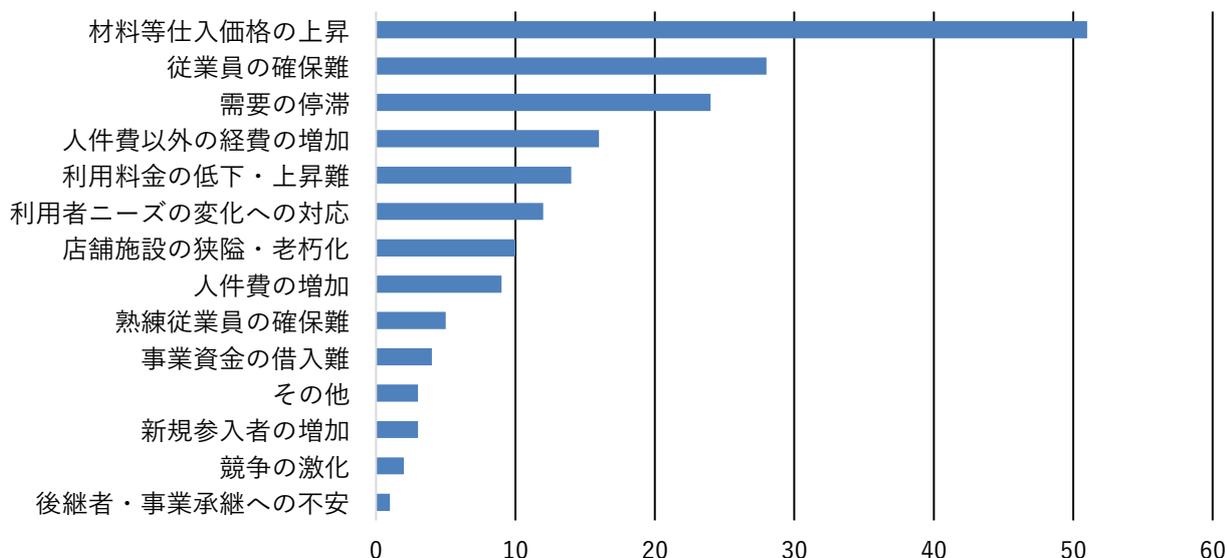


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は51.7%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「需要の停滞」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 業績はやや好転した。宿泊、飲食ともに客数は増加傾向にあるが、団体旅行や宴会での利用はなく、完全な回復には時間がかかる。(ホテル)
- 規制緩和による人流の増加や、新しい宿泊プランを導入したことで売り上げが増加した。(ホテル)
- 仕入価格が上昇した。調理人を中心に人材が不足している。(ホテル)
- 原材料費、水道光熱費が増加した。(ホテル)
- 仕入価格や光熱費が高騰した。消耗品や備品の品切れが生じている。(コテージ・ペンション)
- 行動制限等がなくなり、個人旅行客やツアー客の利用が増えたことで売上は増加しているが、原材料費が高騰しており、厳しい状況に変わりはない。(飲食)
- 仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁できない。(飲食)
- 高齢者や修学旅行客の利用が増加している。(飲食)
- 仕入価格が全体的に高騰している。(飲食)
- 前年より客数は増えたが、コロナ禍前の水準には届かない。借入金の返済が始まり、資金繰りは厳しい。従業員を募集しても応募がない。来期はG o T oキャンペーンの再開や、外国人観光客の増加につながる取り組みに期待したい。(土産品)
- 国内観光客の増加により、客数と売上は前年実績比で増加したがコロナ禍前の水準には戻っていない。外国人観光客が回復するまでは、業況の回復は見込めない。(土産品)
- インバウンドは増えていない。消費額の大きい中国人観光客が増えないと厳しい状況が続く。(土産品)
- 少しずつ人出は増えているようだが、売上はコロナ禍前の50%にも届かない。(土産品)
- 業況好転の兆しが見えてきた。観光客は少しずつ増加している。(土産品)
- 原材料費等の値上げにより、利益率が悪化している。(土産品)
- 日本人客が増えてきている。(土産品)
- 観光客の増加により売上が増加したが、石油の仕入単価も上昇した。(レンタカー)
- まん延防止等重点措置の解除以降、道外客の利用が増加した。(レンタカー)
- 新型コロナウイルスの流行が落ち着き、人流が復活したことで利用者が増加した。(社会教育)

- 臨時休業した前年同期と比べると、客数と売上は約5倍に増加したが、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年同期と比べると約6割減少した。(水運業)
- 知床遊覧船事故による風評被害と欠航が多かったことで、観光船事業は伸び悩んだ。安全確保のための救命胴衣の購入費用等が利益を圧迫している。駐車場の売上は相応に伸長した。(船舶賃渡業)
- 外国人観光客数が新型コロナウイルス流行前の状況まで回復するのはまだ先のことで、収入が減少している中で、燃料価格や仕入価格が上昇しているため、厳しい状況だ。(娯楽業)
- 船舶の保管による売上は前年並だったが、他の分野の売上が減少した。(娯楽業)

[来期の業況について]

- GoToキャンペーンに期待する。(ホテル)
- インバウンドが増加すると思う。(ホテル)
- 緩やかに回復すると思われる。(ホテル)
- どうみん割の利用対象者の全国拡大が話題になっているが、価格帯の高い施設を利用する人が増えると思うので、自社の増収にはつながらないだろう。(コテージ・ペンション)
- 外国人観光客が増加すると思うが、日本人観光客が減少するのではないかと不安に感じている。遅くまで営業する店が減少しており、夜の賑わいが戻ってこないのではないかと危惧している。(飲食)
- 売上の増加は間違いないと思うが、人材の定着と原価のコントロールに苦労すると思う。(飲食)
- 仕入価格の上昇が不安だ。(飲食)
- 国内観光客の増加傾向は続くと思われる。原材料費等あらゆる経費が高騰しているが、商品を値上げできる状況にないため、採算は悪化を見込む。(土産品)
- まん延防止等重点措置等が解除され、観光客が増えている気がするので、期待したい。(土産品)
- 消耗品や包装資材の価格が上昇すると思われる。(土産品)
- 円安による訪日客の増加を見込む。(土産品)
- インバウンドの増加に期待する。(土産品)
- 観光客の増加はしばらく続くと思う。インバウンド増加の兆候もあり、期待している。(レンタカー)
- 今期同様、客数の増加を見込む。(レンタカー)
- インバウンドの段階的な増加に伴い、利用者の増加が見込まれる。(社会教育)
- このまま新型コロナウイルスの流行が落ち着けば、売上、客数の増加が期待できる。(水運業)
- 規制緩和によるインバウンドの増加に期待している。(船舶賃渡業)
- 今期と比べ好転すると思うが、厳しい状況は続くだろう。(娯楽業)